

農業生産法人 株式会社 GRA



経営のプロフィール

経営概要

- ・いちご (11,000㎡)
- ・トマト (2,000㎡)

主な施設・機械の保有

- ・低コスト耐候性ハウス (約13,000㎡)

構成員等

構成員3名, 常時雇用12名, パート25名

法人設立年月日

平成24年1月17日

認定農業者認定年月日

平成24年3月27日

資本金

420万円

役員名

代表取締役: 岩佐 大輝
取締役副社長: 橋元 洋平
取締役: 橋元 忠嗣

主な過去の導入事業及び農業制度資金活用

東日本大震災農業生産対策交付金
宮城県農業生産早期復興対策事業

1 現在の経営内容等

(1) 経営理念, キャッチフレーズ等

- 実行実現: Without action, nothing happens.
- 価値共創: 多くを巻き込み偶発的必然を起こす。
- 自利自他: 尽くして求めず, 尽くされて忘れず。
- 電光石火: 早く速く流やく。同じ波は二度と来ない。

(2) 栽培技術の特長

従来の土耕栽培の経験値に基づくいちご栽培管理技術を数値化・データ化し, これらに基づくコンピュータ管理による環境制御を行い, 栽培に最適な環境作りを目指す。

特にハウス内温度, 湿度や炭酸ガス濃度を最適化することにより, 高品質ないちごの計画的生産・出荷システムの構築を目指している。

併せて病害虫防除については, IPMを担当する社員が常駐しており, 統合的な病害虫管理を実施し, 省農薬, 低コスト化に取り組んでいる。

(3) 販売の特長

インターネット販売の他, 首都圏, 県内などの百貨店やスーパー等独自の販路を開拓。山元町いちごの全国ブランド化を目指し, 当法人が生産する「ミガキイチゴ」のマーケティング, ブランディング活動を通じて高付加価値販売を目指している。

また, いちご100%の本格的なスパークリングワイン「ミガキイチゴ・ムスー」の生産を開始する等6次化への取り組みや, 情報通信技術 (ICT) を応用した

生産管理システムを活用した栽培実験をインドで成功する等海外進出にも取り組んでいる。

(4) 経営組織の特長

震災後新たに設立された農業生産法人であるが, 被災農家や農外からの雇用を行いながら, 試験研究機関等との連携のもと先端技術を活用した農業生産に取り組んでいる。

(5) 労務管理の特長

栽培責任者を配置するとともに, 周年での生産計画に基づき, 25名のパートの方については通年雇用を行っている。

(6) 経営管理の特長

法人格を持った経営組織体として適切な管理体制の構築を目指している。

(7) その他の特長

(地域との連携, 環境への配慮, 情報収集・発信等)

- 農水省との連携事業「新食料供給基地建設のための先端技術展開事業」に現地生産法人として参画。
- 農業にICT (情報通信技術) を応用。
- NPO法人を立ち上げ, 山元産いちごの地域ブランド化に取り組むとともに, いちご以外にも山元町を拠点にし, 優れた商品・サービスを提供する企業・団体に対して, マーケティング, プロモーションに関する支援を行う等, 震災で被害を受けた地域の復興に取り組んでいる。

2 これまでの経過

(1) 法人化するまでの特徴的な歩み

生まれ故郷である山元町が震災で大きな被害を受けたことを契機に, 東京でIT会社を運営していた岩佐氏が設立。

岩佐氏が震災直後の現地でのボランティア活動で知り合った橋元洋平氏, そしていちご作りの大ベテランである橋元忠嗣氏とともに, 山元町の主力産業であったいちごを復活させるべく株式会社GRAを立ち上げた。

(2) 法人化の動機や法人設立時の特徴的経過, 法人化後の変化

震災後のいちご生産の復興と新たな産業づくりを目指し, 多様な人材の参画と関係機関との協力体制を進めるためには法人化することが必要であり, 法人以外の経営組織を検討しなかった。

3 今後に向けて

(1) 解決すべき課題と現在検討中(取組中)の対処方策

生産量の増大, コストの削減。

(2) 今後に向けての経営戦略

山元町産いちごのナショナルブランド化と, 東北を世界的な先端園芸の集積基地にすることを旨とする。

(調査: 亘理農業改良普及センター)

略図



農業生産法人 株式会社GRA

〒989-2201 亘理郡山元町山寺字桜堤48
TEL 0223-37-9634
FAX 0223-37-9635
URL <http://www.gra-inc.jp/>
E-mail gra-info@gra-inc.jp

視察受入条件

Webより申し込み

<http://www.gra-inc.jp/kengaku.html>